Creating future lifestyles through sustainable business

「みらい生活創造企業」に向かってチャレンジし続ける

私たちニッケグループは、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”という企業理念の下、
ライフステージ全体に関わる多様な事業を通して「みらい生活創造企業」となることを目指しています。
2024年度からは「RN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」の集大成として、
第3次中期経営計画（2024～2026年度）がスタートしました。
ニッケグループが一丸となってチャレンジを続け、生命力あふれた「みらい生活創造企業」となれるように
今後もサステナブル経営を推進します。



CONTENTS

05～12　第1章　Cover Story
05～12　CEOメッセージ

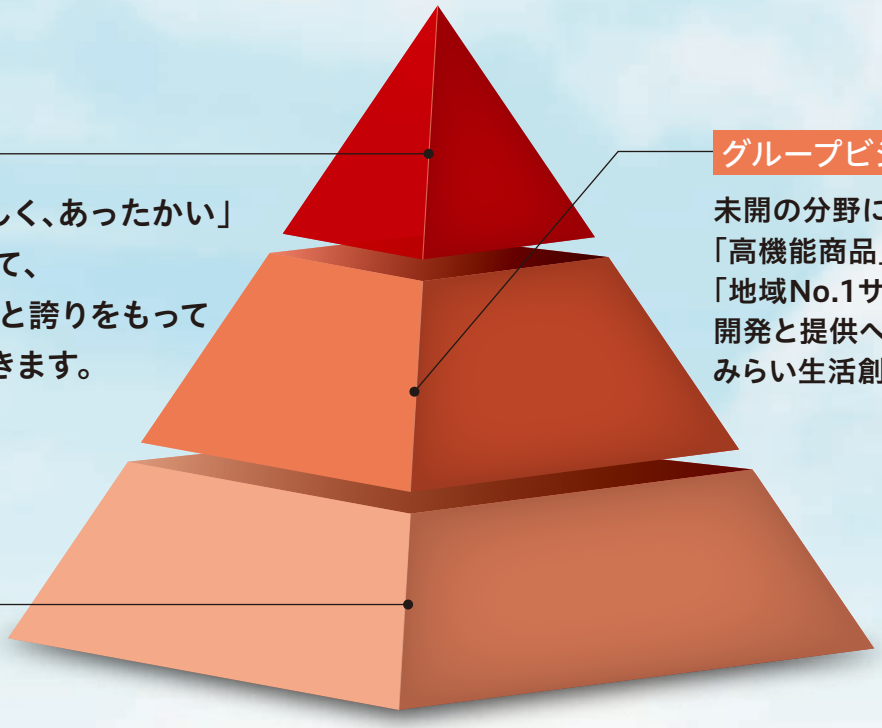
13～26　第2章　Review of Business
13～14　価値創造プロセス
15～22　事業紹介
23～26　CFOメッセージ

27～46　第3章　ESG in Action
27～28　ニッケグループのマテリアリティ
29～30　TCFD提言に基づく開示
31～32　環境活動について
33～34　人財戦略
35～36　健康経営の推進
37～38　社会との関わり / ステークホルダーエンゲージメント
39～44　コーポレートガバナンス
45～46　役員紹介

47～54　第4章　Data
47～52　財務データの推移 / 非財務（ESG）の状況
53～54　会社概要 / 事業拠点

経営理念

人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもって
チャレンジして行きます。



グループビジョン

未開の分野に目を向け、
「高機能商品」
「地域No.1サービス」の
開発と提供へ挑戦し、
みらい生活創造企業を目指します。

経営方針

- 「全員がチャレンジ精神を持ち」「人が育つ」、生命力あふれた会社を目指します。
- お客様の声と研究開発から、独自性のある商品・サービスで市場を創造します。
- 常に未来を見つめ、グローバルな視点に立ち、世界に広がるお客様と社会の発展に貢献します。
- 多くの市場で勝ち抜くために、広く人財を求め、多様な「知」を結集して、事業を革新・発展させます。
- お客様や株主様、社員、取引先、地域社会をはじめとした様々なステークホルダーとの永続的な信頼関係を築くことにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。



編集方針	本統合報告書は、株主・投資家の皆様をはじめとしたあらゆるステークホルダーの方々に、経営実績や戦略などの財務情報に加え、環境・社会・ガバナンスの非財務情報の両面について、ニッケグループをご理解いただけるよう「統合報告書」として編集しています。
報告対象期間	2023年度(2022年12月1日～2023年11月30日)
報告対象組織	ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。 ＜環境報告の対象範囲＞ ●ニッケ製造事業所:2ヵ所[印南工場、岐阜工場]●オフィス:6ヵ所●国内グループ会社:10社[アンビック(株)(現 (株)エフアンドエイノンウーブンズ)、(株)ゴーセン、金屋ニット(株)、尾州ウール(株)、大成毛織(株)、(株)ツキネコ、(株)ニッケ起ダイイング、ホクレン(株)、(株)フジコー(現(株)エフアンドエイノンウーブンズ)、(株)ニッケ機械製作所]●ショッピングセンター:2ヵ所[ニッケパークタウン、ニッケコルトンプラザ]
ご注意	集計対象会社などに準じて、報告対象年度以前のデータを見直し修正していますので、前年度報告のデータと異なる数値があります。また、四捨五入によって、前年度報告の数字と異なる場合があります。
免責事項	本報告書は、ニッケおよびニッケグループの将来に関する見通しも記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

Our story

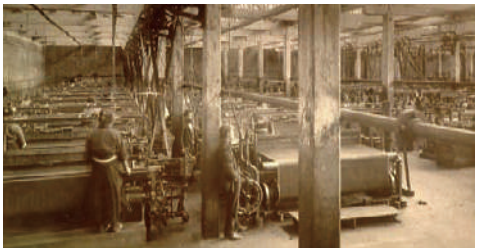
ニッケグループの歩みは、価値転換の歴史です

繊維事業から産業機材、商業施設の運営、Eコマース（EC）まで。
ニッケグループの多彩な事業の背景には、チャレンジし続けてきた歴史があります。
時代の変化を捉える積極性と堅実性を併せ持つ経営指針のもとに、新しい社会価値に転換し続けてきた経験とノウハウこそが独自の「サステナブル経営」モデルであり、ニッケグループの強みです。

1896

創業

今から約130年前の1896年、日本の成長に伴って毛織物の需要が拡大する中、輸入品に頼る状況を憂いた川西清兵衛が日本毛織株式会社を設立しました。小規模な地方の一毛織会社が技術者をヨーロッパに派遣するなど当時としては画期的な試みを行い、ウールのニッケの基礎を確立。繊維事業を拡大しました。



織機

1960～

スクールユニフォーム強化

スクールユニフォームの販売体制の強化を推進。標準的な新型学生服「ニッケスクールスーツ」やブレザースタイルを中心としたアイビー調の「ニッケヤングスター」など、「生徒たちが喜んで着用する学校制服」を提案しました。



産業機材事業

自動車関連や環境関連など幅広い分野に向けた製品・設備などの開発・製造・販売

衣料繊維事業

ウール由来の先端素材やハイブリッド素材・製品の開発・製造・販売

人とみらい開発事業

「街づくり」を主眼とした地域共生型のサービス提供および不動産開発

生活流通事業

商社機能を活かした、グループ内外に対する販売・物流サービスの提供



創業者・川西清兵衛（かわにしせいべえ）

実業家・川西清兵衛（1865-1947）は、毛織事業の将来性を見越し、神戸の実業家を募って1896年に日本毛織を設立。ニッケを羊毛業界のリーディング・カンパニーの地位を築き上げました。また、優れた手腕でさまざまな事業を立ち上げ、川西財閥を形成しました。

1980～

繊維事業からの多角化 商業施設運営事業に進出

繊維不況を背景に多角化を本格化。工場の跡地活用による事業転換として、1984年には加古川工場跡地にニッケパークタウンを、1988年には中山工場跡地にニッケコルトンプラザを開業しました。



ニッケパークタウン（兵庫県加古川市）



ニッケコルトンプラザ（千葉県市川市）

「みらい生活創造企業」を目指し、不断のチャレンジを続けます

成長事業や新規事業、合理化（省エネ・省人・自動化）への資源の重点配分や海外ビジネスの拡大、資本効率の改善を進めるとともに、事業部内・事業部間におけるシナジー効果を創出。ニッケグループが一丸となってチャレンジを続け、生命力あふれた「みらい生活創造企業」を目指します。

2000～

M&A拡大

グループ全体での発展を目指してM&Aによる事業拡大を進めました。成長分野をグループに取り込むことで組織の活性化も図っています。





2008

6事業部制・日本毛織からニッケへ

繊維本業の会社から事業複合体への変革を進める中、通称社名を「ニッケ（NIKKE）」としました。「衣料繊維事業」「資材事業」「エンジニアリング事業」「不動産事業」「コミュニティサービス事業」「流通サービス事業」の6事業部制を採用し、グループシナジーの最大化を図りました。

2012

4事業部制

従来の6事業部制から「衣料繊維事業」「産業機材事業」「人とみらい開発事業」「生活流通事業」の4事業に統合再編。経営の機動性・効率性を高め、グループ総合力の向上を図りました。



2016

「みらい生活創造企業」へ

新中長期ビジョン「RN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」を策定。未開の分野に目を向けて「高機能商品」「地域No.1サービス」の開発と提供に挑戦し、豊かな未来を実現する「みらい生活創造企業」を目指すことを掲げました。



2018

メディカル分野への参入

ライフサイエンス分野への進出を図るため、メディカル用資材を専門に取り扱う株式会社ニッケ・メディカル（現（株）京都医療設計）を設立。再生医療をはじめとしたライフサイエンス分野で活用できる、さまざまな繊維加工製品の開発に取り組んでいます。



細胞培養用ゼラチン繊維基材「Genocel®」